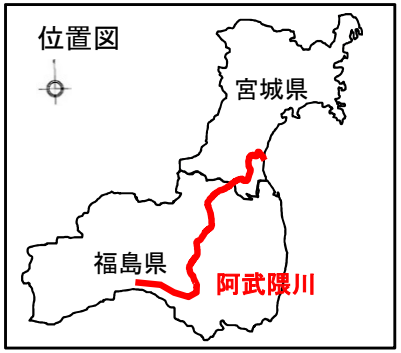
阿武隈川水系流域治水プロジェクト【中間とりまとめ（案）】

～本川・支川の抜本的な治水対策と流域対策が一体となった総合的な防災・減災対策～

○ 令和元年東日本台風で甚大な被害が発生した阿武隈川水系では、阿武隈川緊急治水対策プロジェクトに加え、以下の取り組みを実施していくことで、国管理河川においては、戦後最大の令和元年東日本台風洪水と同規模の洪水を安全に流下させ、堤防からの越水を回避し、流域における浸水被害の軽減を図る。



■河川における対策

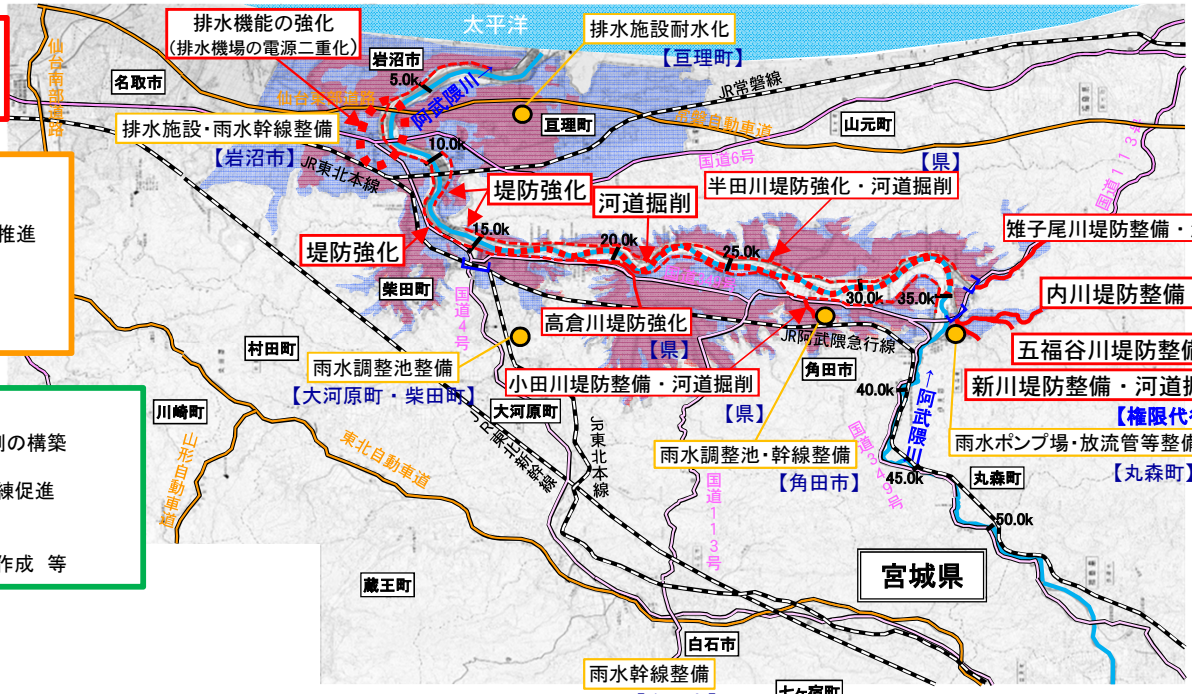
対策内容　河道掘削、堤防整備、遊水地整備、千五沢ダム再開発　等

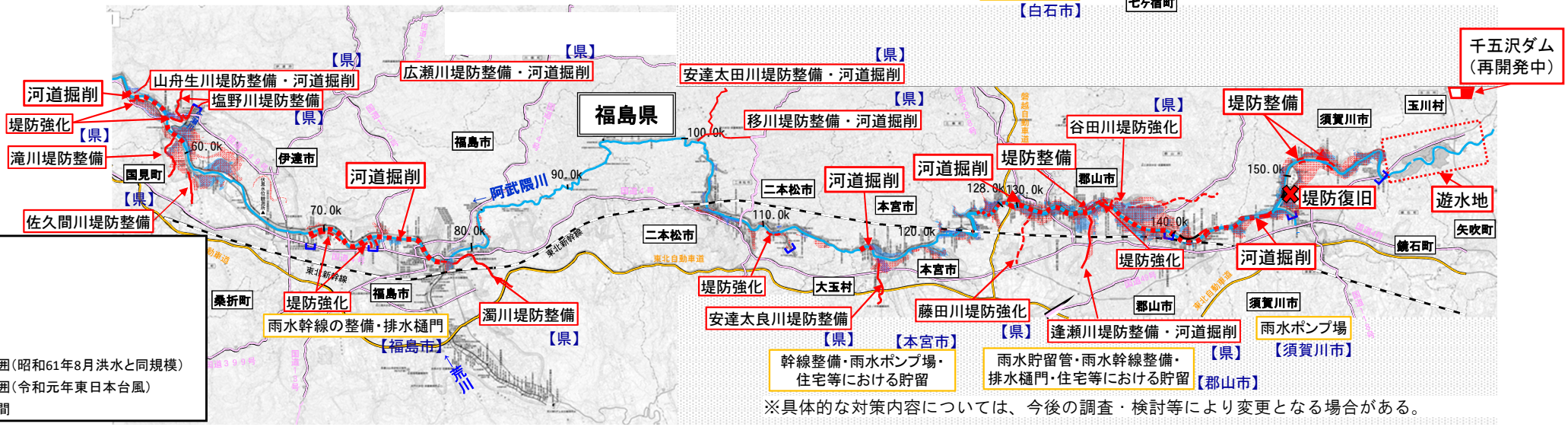
■流域における対策

・浸水リスクを考慮した立地適正化計画の展開
・河川への流出を抑制する雨水貯留施設整備等の推進
・雨水幹線の整備
・利水ダム等16ダムにおける事前放流等の実施、体制構築（関係者：国、宮城県、福島県、沿川市町、東北電力（株）、土地改良区など）　等

■ソフト施策

・危機管理型水位計及びカメラの設置及び避難体制の構築
・ハザードマップの見直し
・要配慮者利用施設も含めた避難計画策定及び訓練促進
・「マイタイムライン」作成の普及促進
・自主防災組織の設置促進と人材育成
・支川や内水を考慮した「複合的なハザードマップ」作成　等





凡例
- 堤防整備
- 堤防強化
- 河道掘削
- 浸水想定範囲（昭和61年8月洪水と同規模）
- 実績浸水範囲（令和元年東日本台風）
- 大臣管理区間

※具体的な対策内容については、今後の調査・検討等により変更となる場合がある。